

GIGAスクール ICT活用について

京都市立白河総合支援学校

京都市教育委員会 総合育成支援課
専門主事 高松 崇

GIGAスクール構想

基本導入パッケージ（ハードウェア）



iPad 32GB
(LTEモデル(135台) も有)



保護カバー+キーボード
logicool RUGGED COMBO 3



小型軽量タイプ
(各校2台)



高画質タイプ
(2学級に1台)

WEBカメラ
(カメラ・マイク・スピーカー一体型)



スタイラスペン
(プリンストンPSA-TPR05 一定数)



Web会議配信用端末
(CORE i7相当 1台)



デジタルテレビ+スタンド
(Sony製65型 学級1台)



端末充電保管庫
(TVスタンド兼用型ではなく、通常の保管庫)

GIGAスクール構想
障害のある児童生徒のための
入出力支援装置整備

GIGAスクール構想の加速による学びの保障

2022年度補正予算額（案）2,292億円



目的

「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を早期に実現

児童生徒の端末整備支援

○ 「1人1台端末」の早期実現 1,951億円

令和5年度に達成するとされている端末整備の前倒しを支援。
令和元年度補正措置済（小5,6、中1）に加え、残りの中2,3、小1～4すべてを措置

対象：国・公・私立の小・中・特支等
国公立：定額（上限4.5万円）、私立：1/2（上限4.5万円）

○ 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 11億円

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる障害に対応した入出力支援装置の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等
国立、公立：定額、私立：1/2

学校ネットワーク環境の全校整備 71億円

整備が可能となる未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった学校ネットワーク環境の整備を支援

対象：公立の小・中・特支、高等学校等
公立：1/2

GIGAスクールサポーターの配置 105億円

急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、ICT関係企業OBなどICT技術者の配置経費を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等
国立：定額、公私立：1/2

緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

家庭学習のための通信機器整備支援 147億円

Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、LTE通信環境（モバイルルータ）の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等、年収400万円未満（約147万台）
国公立：定額（上限1万円）、私立：1/2（上限1万円）

○ 学校からの遠隔学習機能の強化 6億円

臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等
公私立：1/2（上限3.5万円）、国立：定額（上限3.5万円）

○ 「学びの保障」オンライン学習システムの導入 1億円

学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能なプラットフォームの導入に向けた調査研究

施策の想定スキーム図



※上記は公立及び私立のイメージ、国立は国が直接補助

入出力支援装置整備 貸出用

用途	製品名	image
スタイラスペン	アクティブスタイラス PSA-TPR05 500	
ポインティングデバイス	Magic Trackpad2 20	
	Zono ヘッド マウントセット 8	
	ジョイスティック マウス 8	
	ジョーズ3 4	

用途	製品名	image
スイッチ インターフェース	AMAneoBTi 10	
	なんでもワイヤレス 20	
視線入力装置	Tobii 5C Eye Tracker 8	
	固定アーム 「miyasuku スタンド」 8	
マイク	AmiVoice Front WT01 31	

*赤字は京都市での総数 スタイラスペン・Trackpadは支援課在庫 その他は地域制支援学校に仮置

Society5.0（ソサエティ5.0）未来の日本の姿

Society5.0。

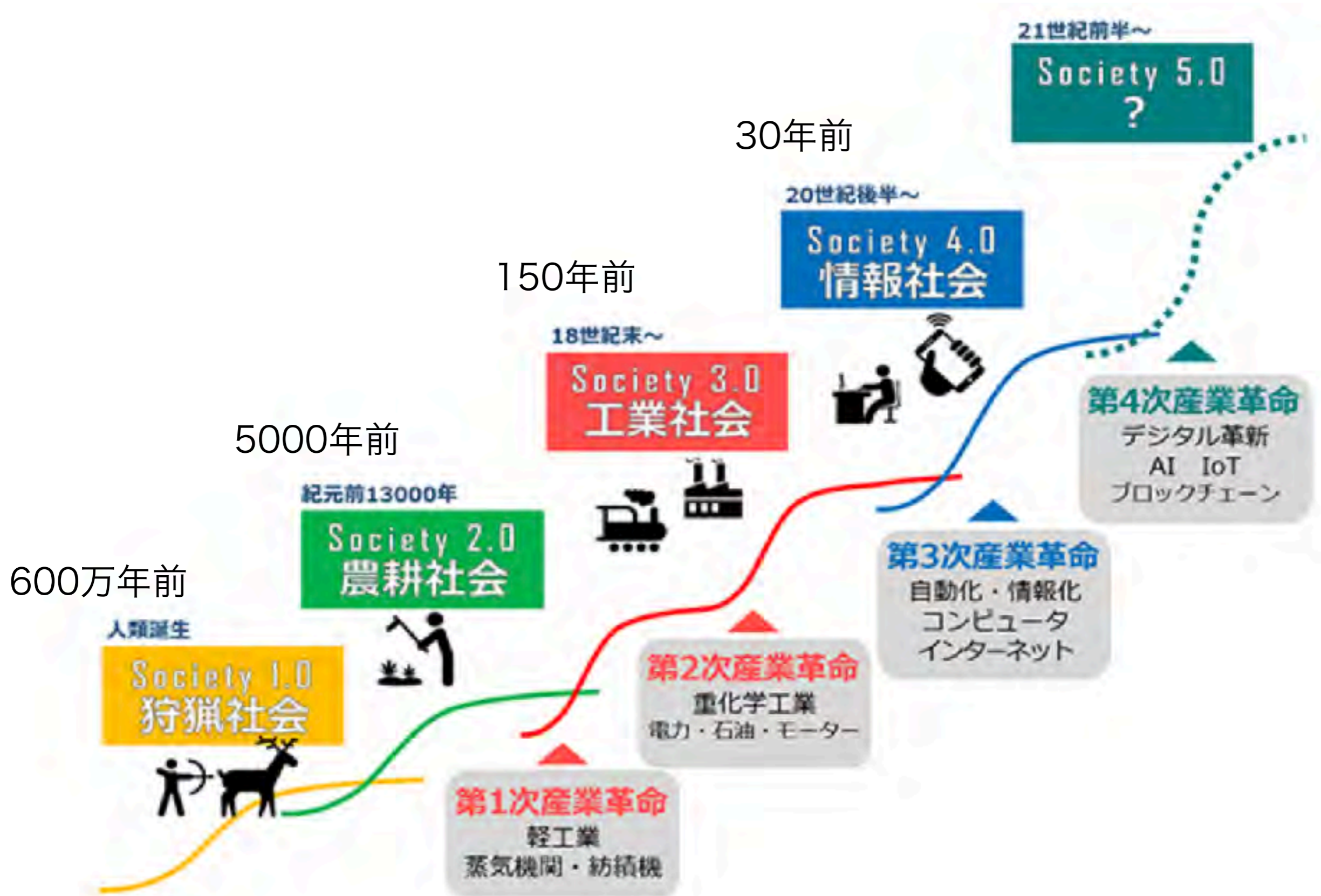
それは、IoTやAIといった先端技術によって、
社会課題を解決していくスマート社会のこと。

私たちの暮らしは、

Society5.0 でどんなふうに変わっていくのでしょうか？

ちょっと先の日常を覗いてみましょう。

Society5.0とは



2027年65%は新たな職業に就職する

- 「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」
- 米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソン氏
2011年8月、ニューヨークタイムズ紙のインタビューで語った
予測が波紋を呼んだ



1. 特別支援教育におけるICT活用の視点

視点1

教科指導の効果を高めたり、
情報活用能力の育成を図ったり
するために、ICTを活用する視点

- 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、障害の有無や学校種を超えた共通の視点。
- 各教科等の授業において、他の児童生徒と同様に実施。

視点2

障害による学習上又は生活上の
困難さを改善・克服するために、
ICTを活用する視点

- 自立活動の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。



各教科及び自立活動の授業において、
個々の実態等に応じて実施。

✓ 新特別支援学校学習指導要領では

各教科の指導計画の作成に当たっての配慮事項として、各障害種ごとにコンピュータ等のICTの活用に関する規定を示し、指導方法の工夫を行うことや、指導の効果を高めることを求めている。

学校（教員）の意識が変わること！

出来ないことを出来るように



出来ないことはICTに任せる

（依存先を増やす）

出来ることを伸ばす

（リフレーミング）

劣る事より、秀でている事を目標にしてみてもは！！

キャリア教育の観点からもGIGA構想はチャンス

「この子でも○○ならできます。」



「この子だから△△ができます。」

活用において大切な考え方

タブレット端末がT1,T2になっていないか？

タブレットが時間つぶしアイテムになっていないか？

タブレットをご褒美（エサ）としてつかっていないか？

分かる授業づくり（視覚支援）

出来る仕組みづくり（AT・AAC）

個に選択・決定を（個別最適化）

知識の定着・ドリル学習だけは勿体ない！！

10:26 3月17日(水) 92%



あ
か
ち
ゃ
ん





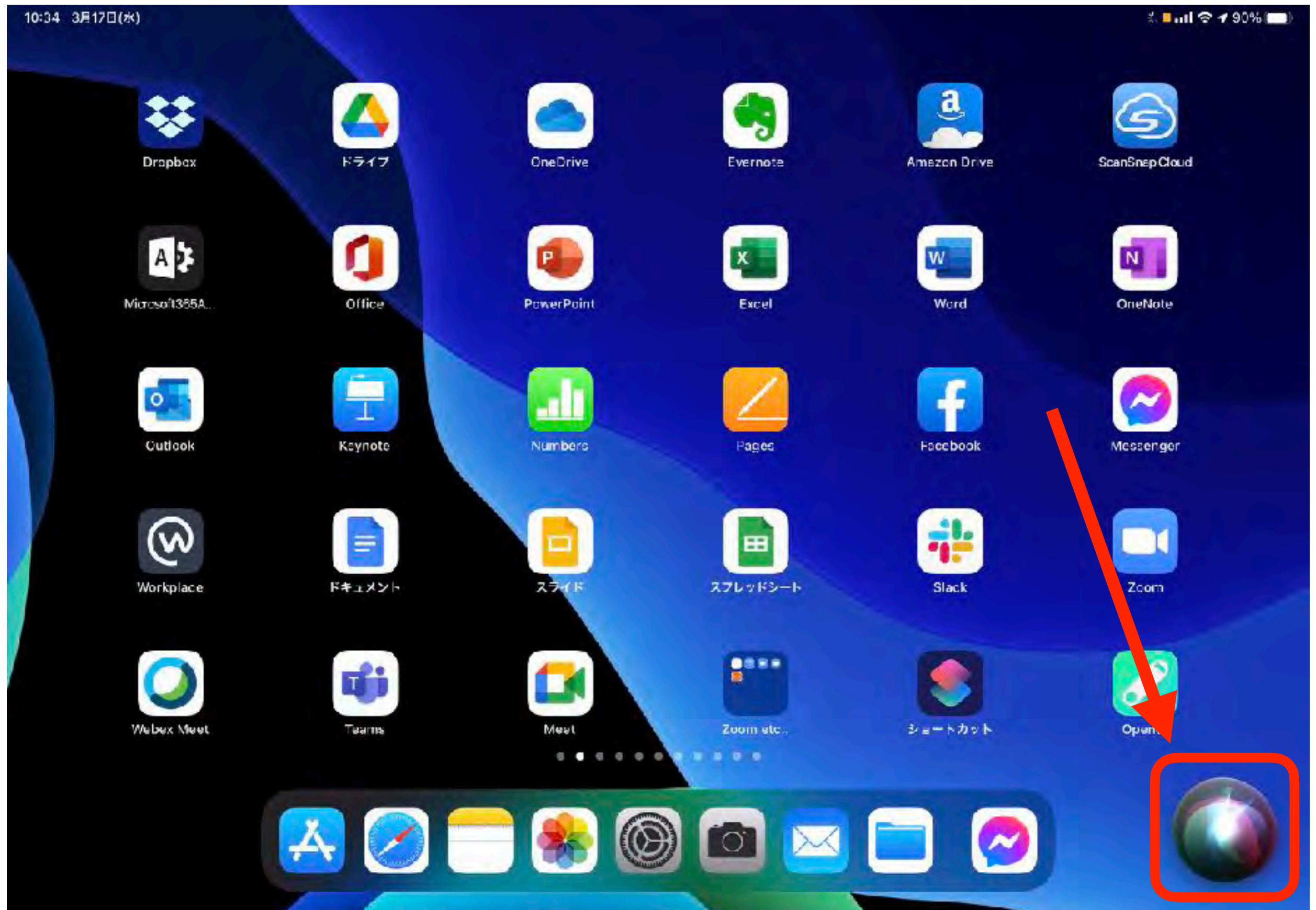


書く（伝える）

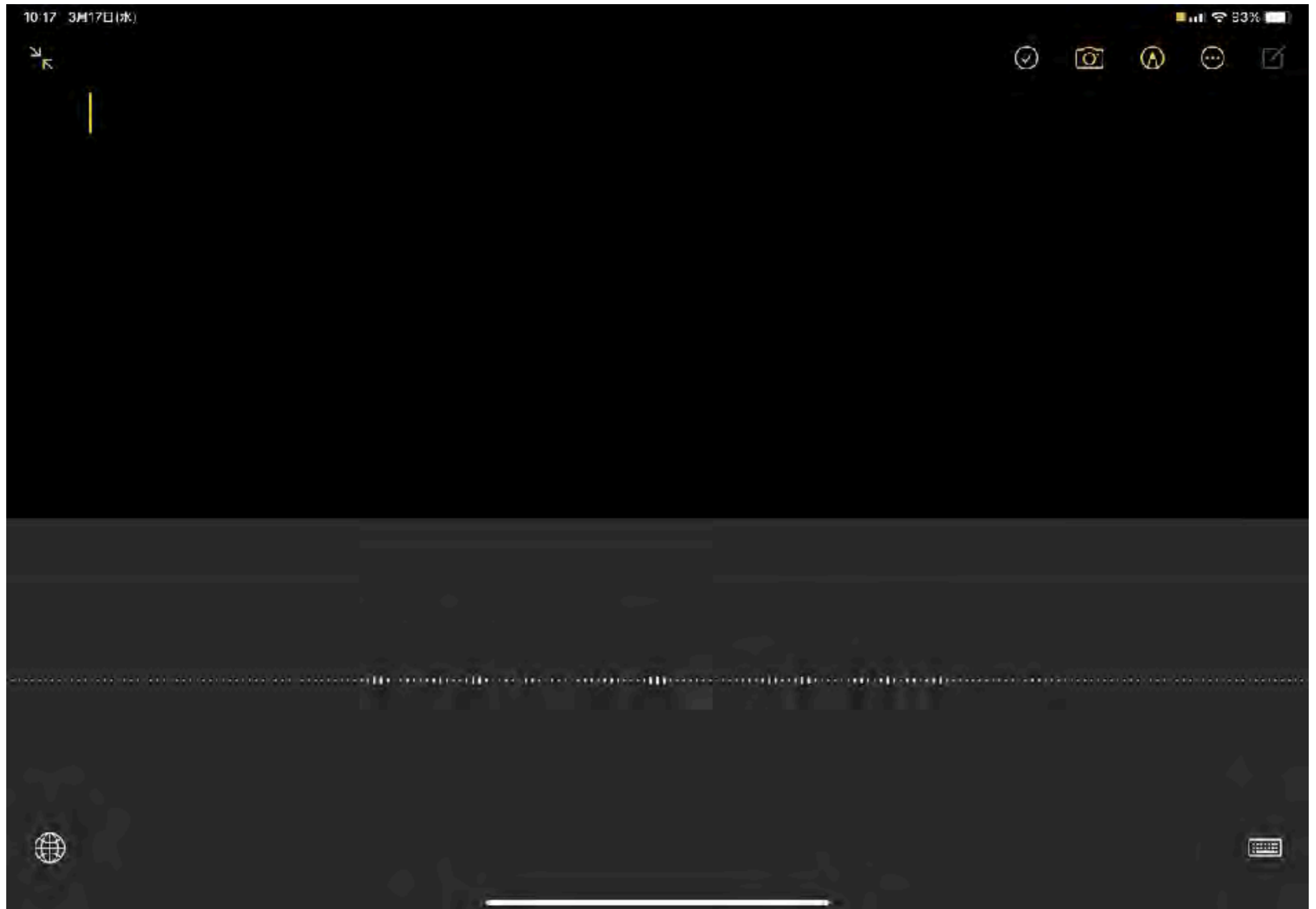
を例に活用を考えてみましょう。

個に応じた支援が必要

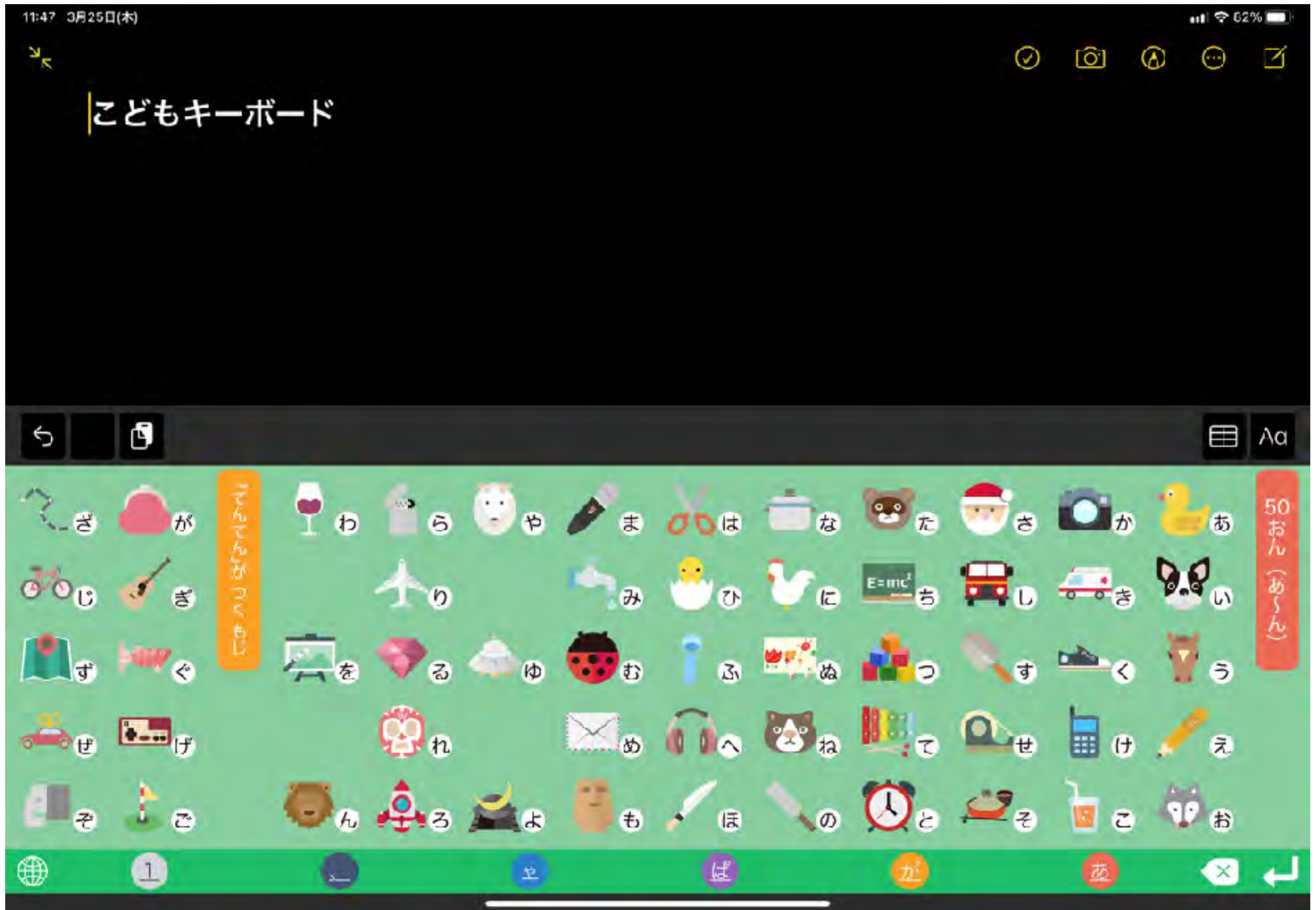
音声ガイドンス（話せばわかる！）



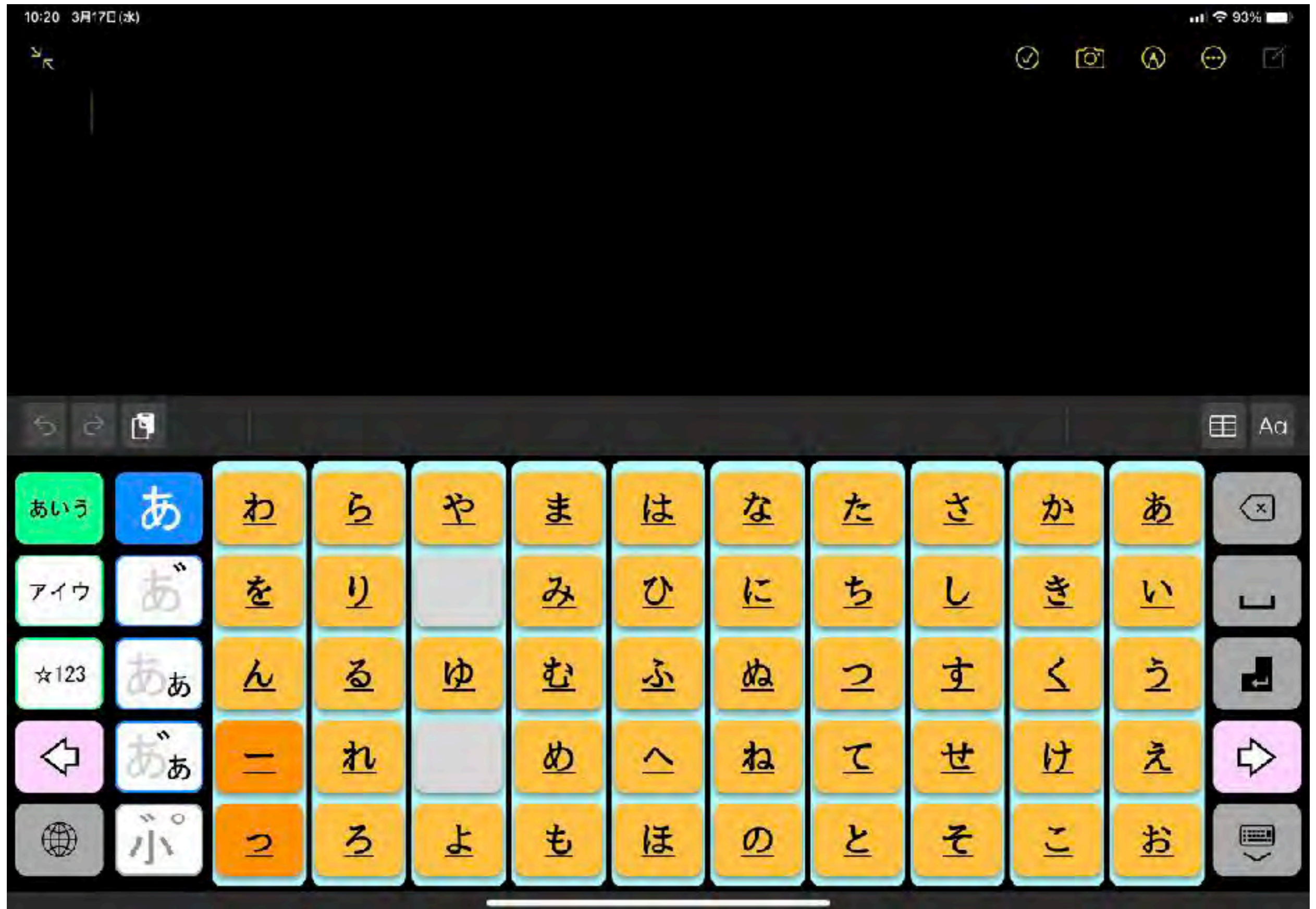
音声入力（音から文字へ）



こどもキーボード (イラスト&文字)



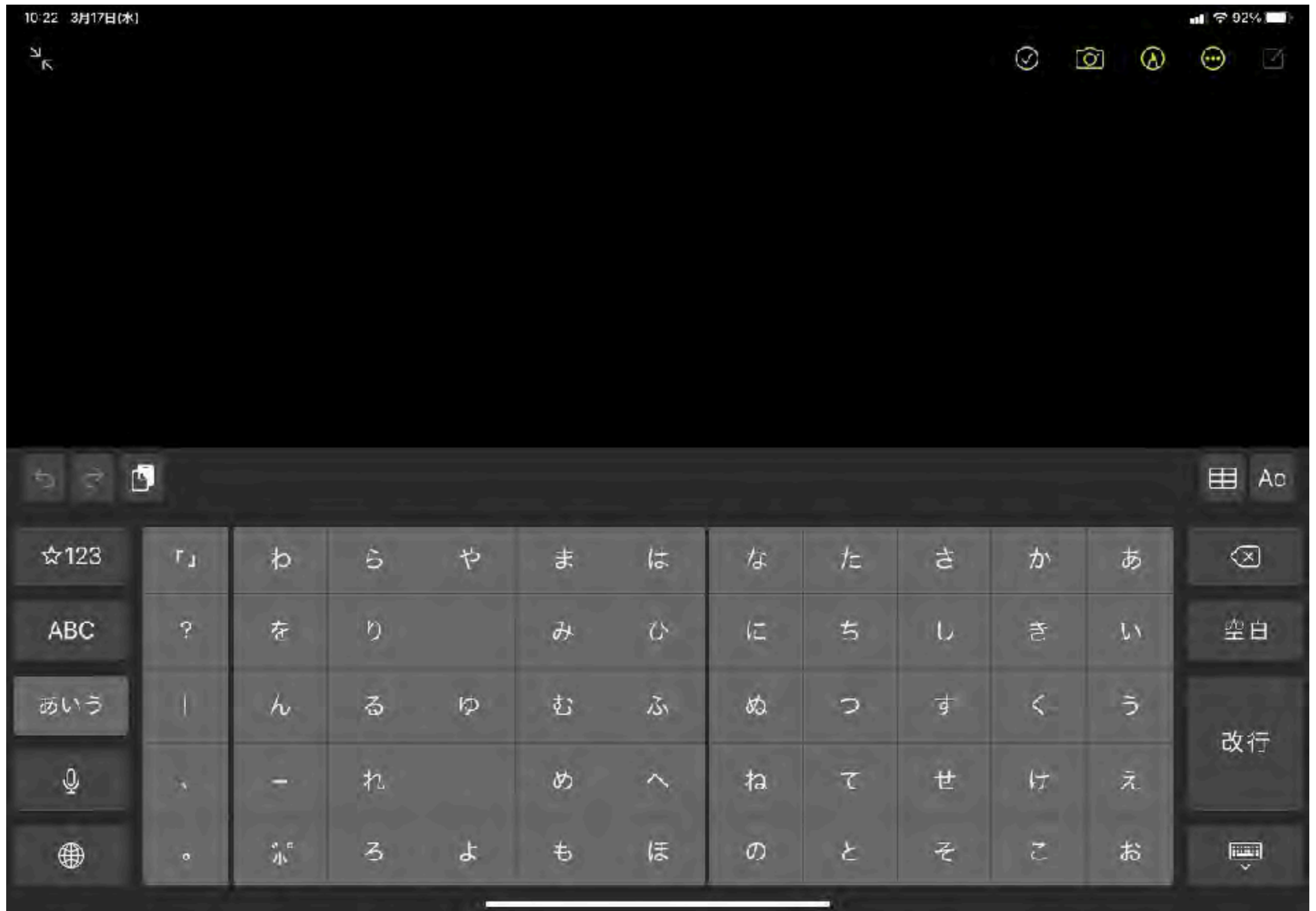
ごじゅーおん (文字を音で確認)



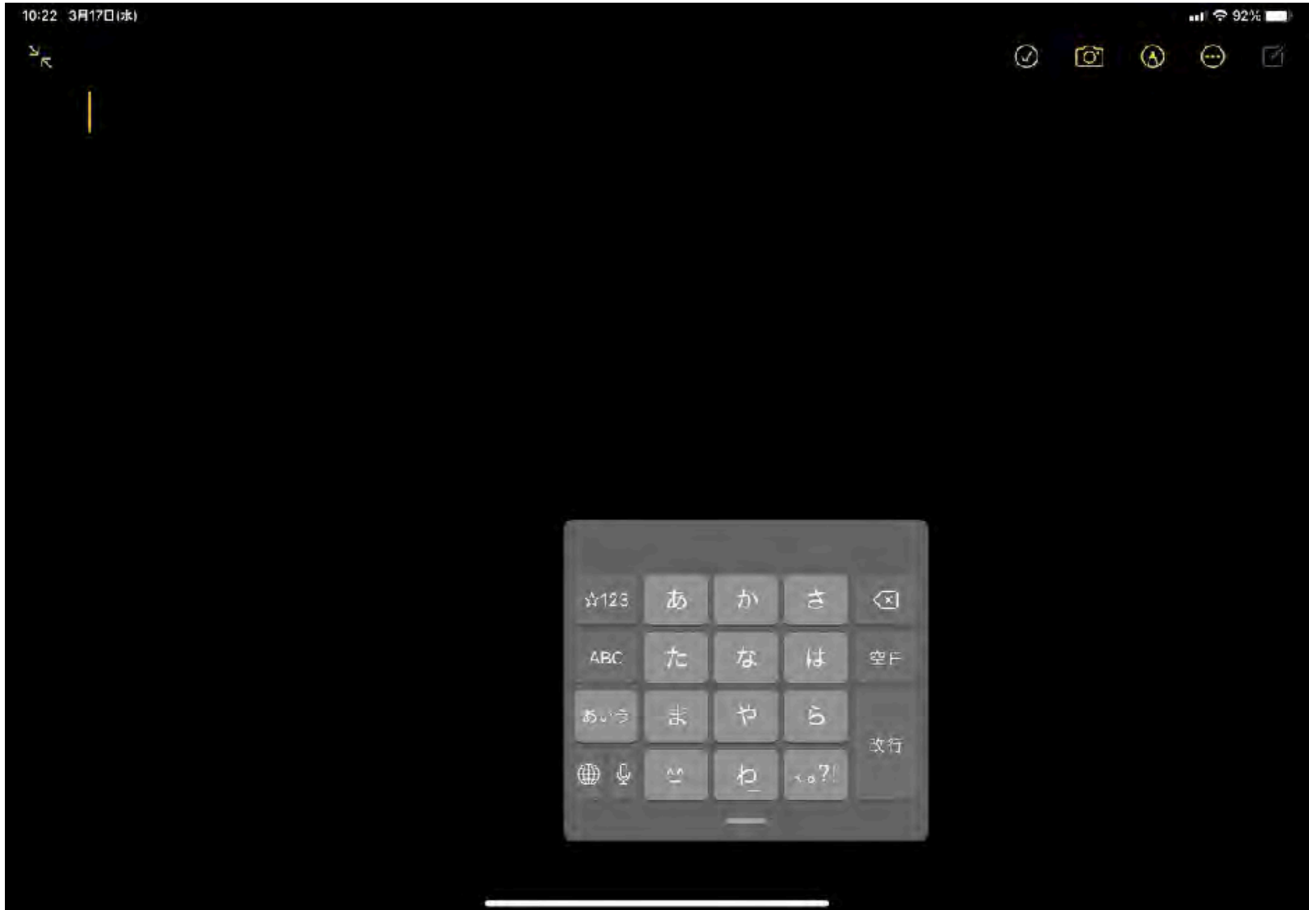
Phraseboard (定型文で入力)



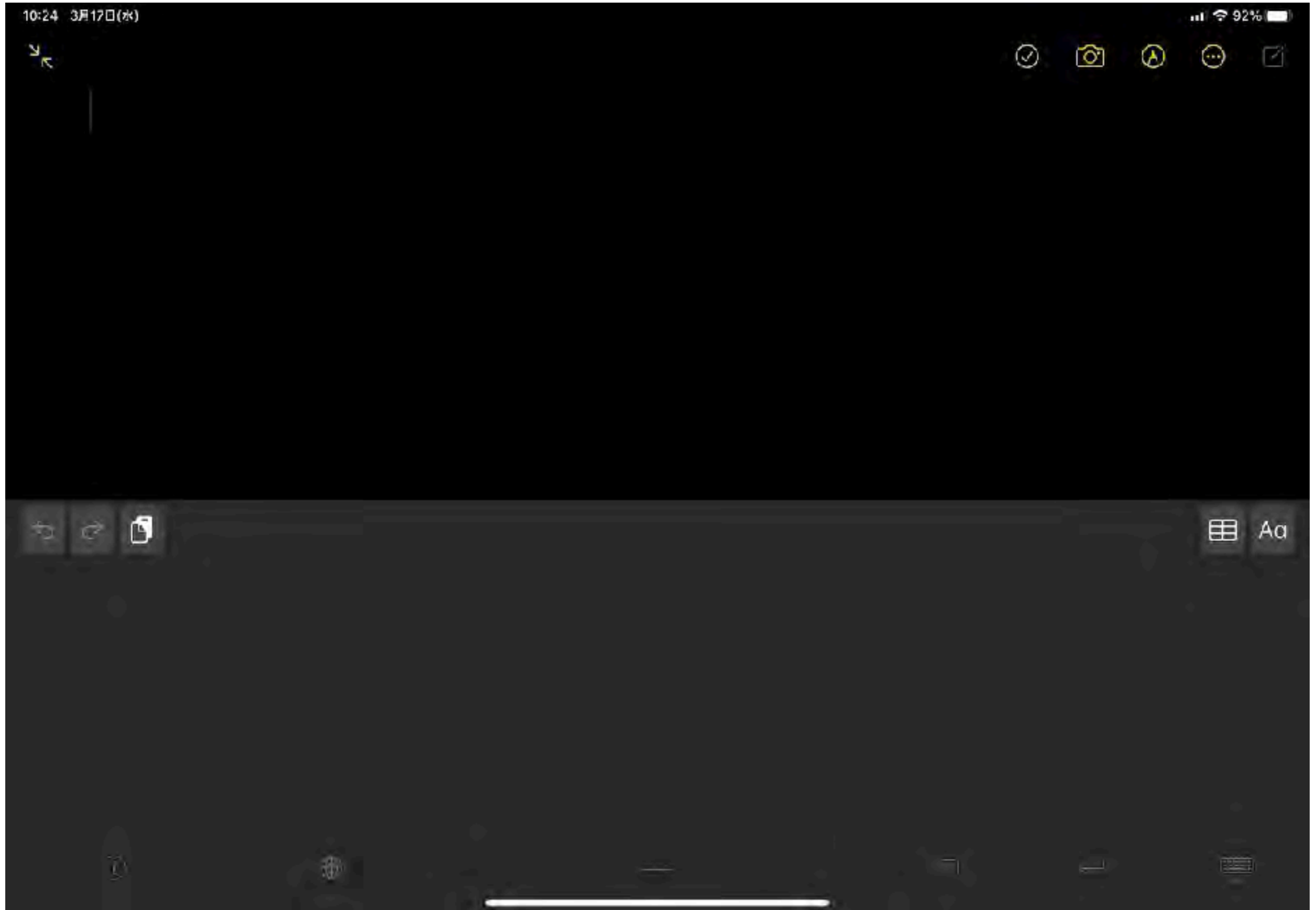
日本語かな（ひらがなの定着）



日本語かな フリック (スキルの般化)

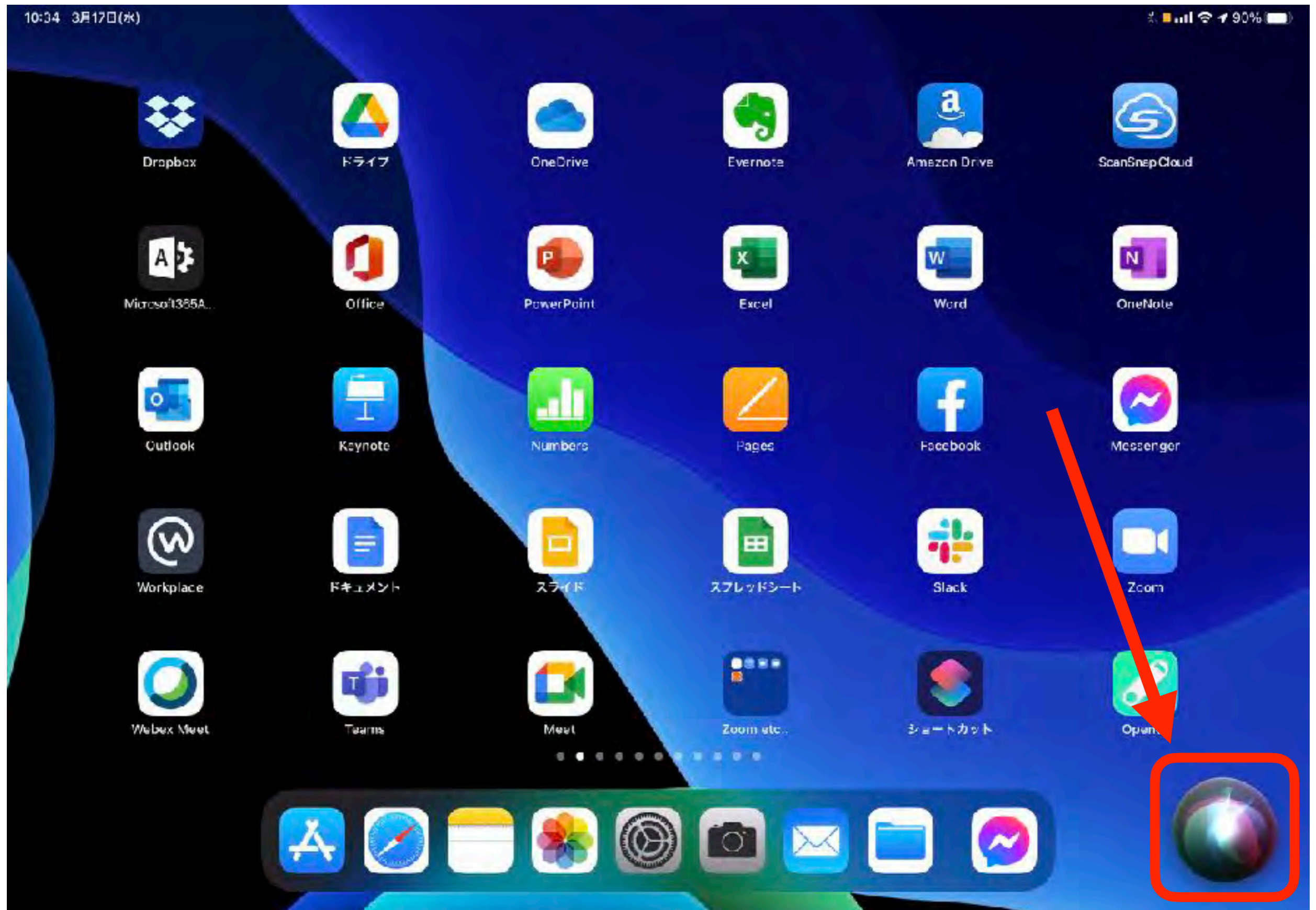


手書きキーボード（個に応じた選択）

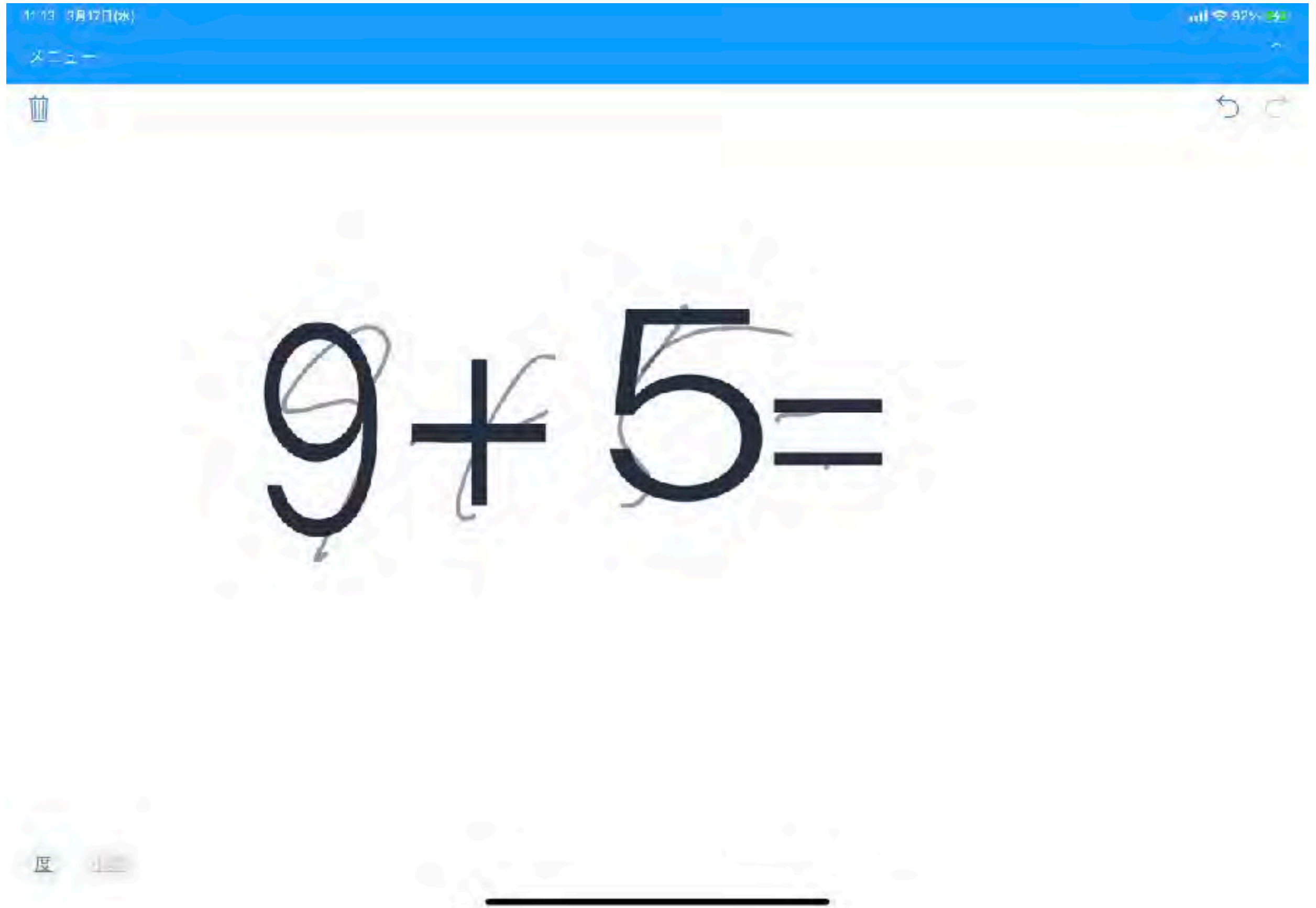


計算する

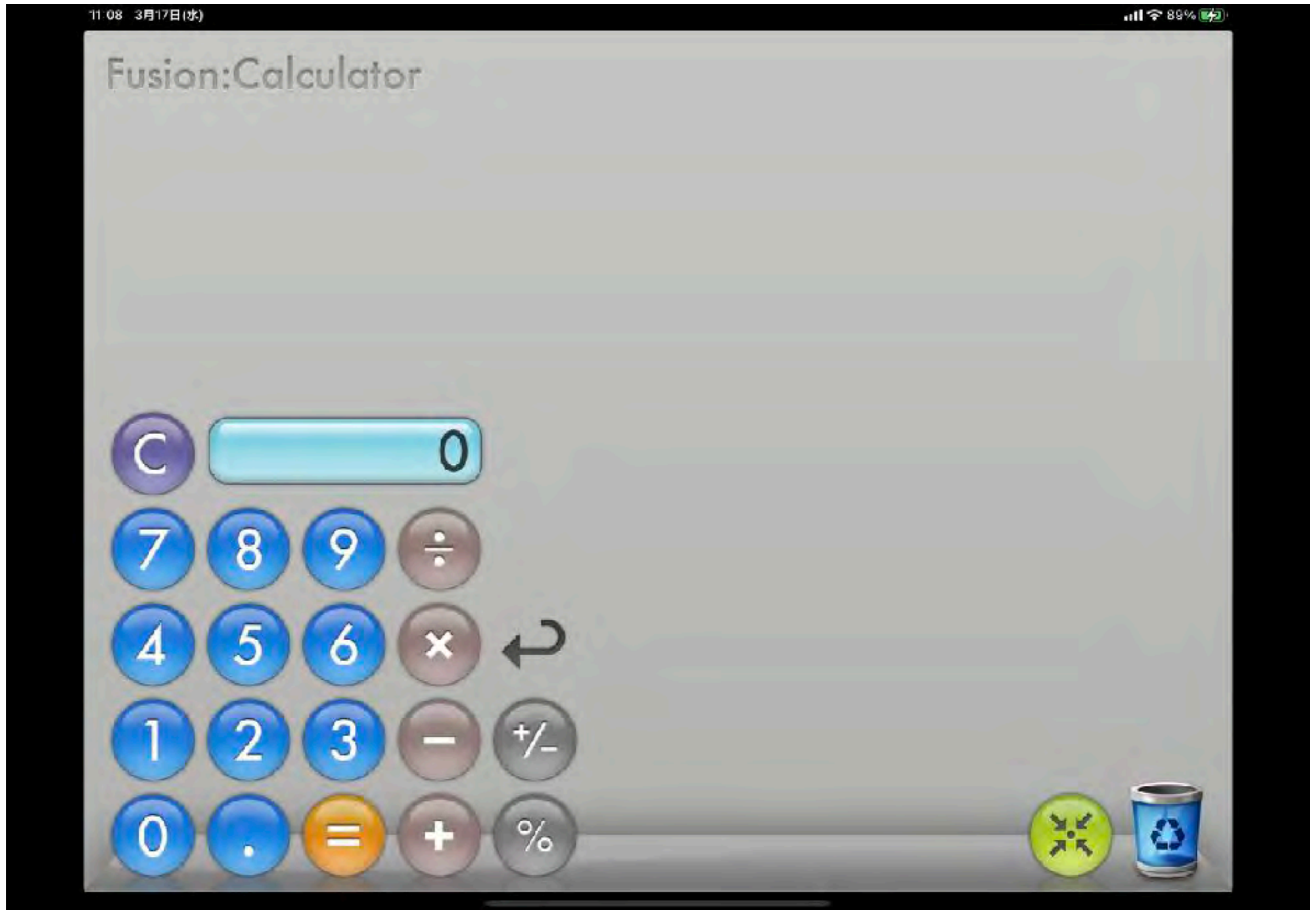
音声ガイドンス（話せばわかる！）



手書き電卓アプリ

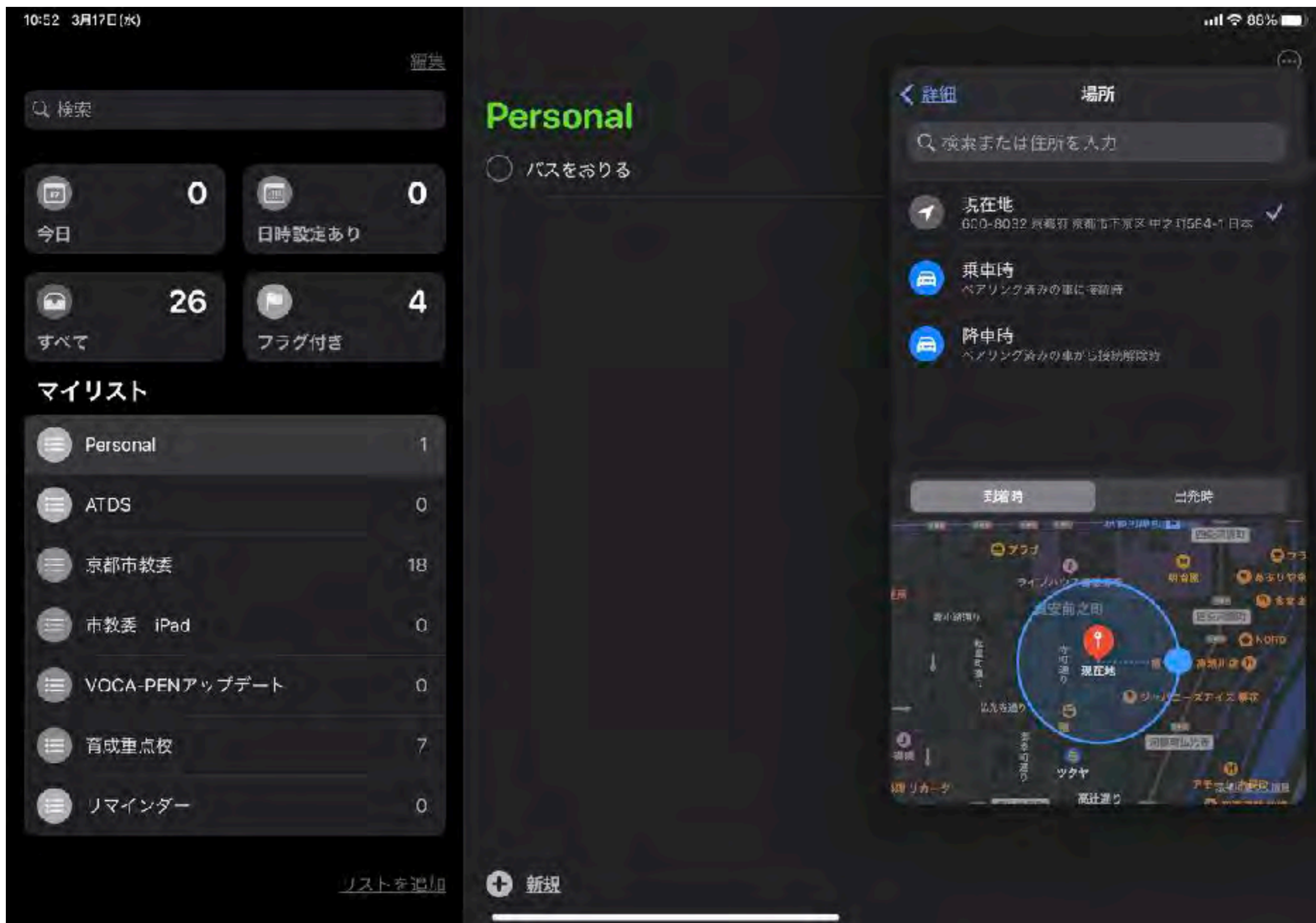


電卓アプリ (スキルの般化)



生活支援

リマインダー (場所で通知)





教師のみなさんに役立つヒント30

1

アイデアを
その場で記録する



2

写真に
書き込んで
ハイライトする



3

ウェブページで
必要でない
情報を隠す

4

画面収録を
授業に使う

5

タップでの操作を
効率化する

6

資料を集めて
整理する

7

Safariで
ウェブページを
PDFにする

8

スクリーンショットに
書き込む



9

iPadの画面を
ミラーリングする

10

ウィンドウを並べて
スムーズに作業する

11

お気に入りの
サイトにすばやく
アクセスする

12

授業でよく使う
ツールを揃える

13

アプリケーションを
フォルダに
整理する

14

必要な情報を
すばやく確認する

15

QRコードを
スキャンする



16

音声で指示する



17

ページ全体を
スクリーンショットに
撮る



18



リーディング
リストを作る



19

配付物を
デジタル化する



20

自分の写真を
載せる



21

授業の導入に
アニメーションを
活用する



22

スライドを
ムービーに変換する



23

保護者に
連絡事項を
伝える



24

スローモーションで
説明する



25

スタイルを複製する



26

暗記カードを
デザインする



27

ホワイトボードの
ように書き込む



28

タスクを管理する



29

プレゼンテーション
再生中に
注釈を加える



30

生徒たちと
共同で配付物を
完成させる



ヒントをクリックまたはタップすると、手順の説明を確認できます。

#AppleTeacher

Microsoft Teamsの活用

複数の用途別チームの作成

学校全体、教員全員、学部・学年別といったチーム分け

それぞれにアクセスできる教員、児童生徒を割り振り

共有情報をテーマごとに分類する「チャンネル」

(教科、行事・・・)

チーム (イメージ)



チャンネル (イメージ)



チャネルの活用

迅速な連絡

持ち物などの連絡 生徒に「いいね」で既読確認

予定表で時間割確認

資料の共有

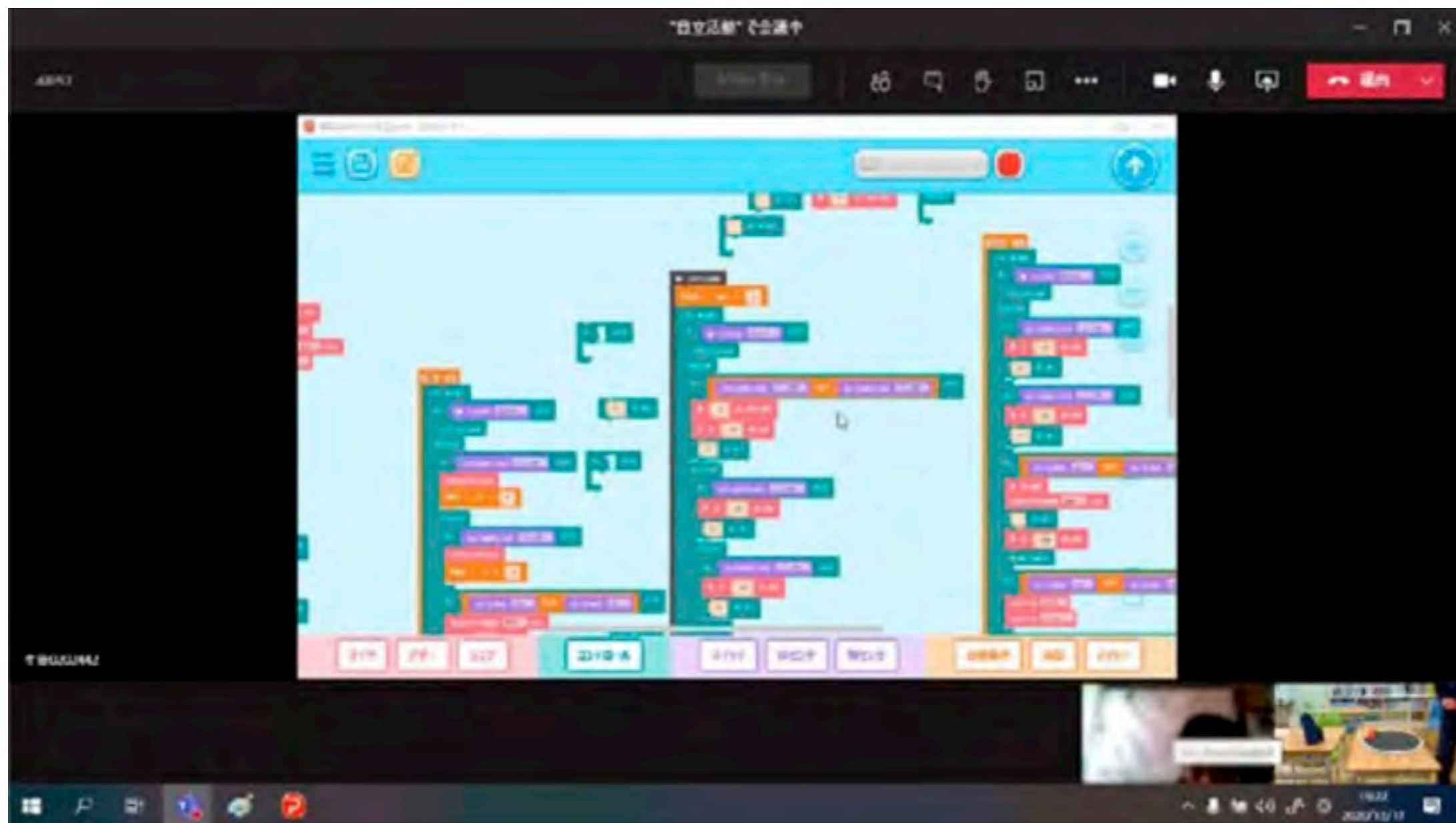
授業で利用する資料などを事前に配布

協働学習

協働でファイルの編集

チャット機能などで指導

画面共有 ・ 遠隔授業



教員のワークスタイルの変化

資料のペーパーレス化

会議・打ち合わせ等の遠隔参加

場所・時間にとらわれない効率化

まとめ

活用において大切な事

学習のねらいは何か？
何に困っているのか？

iPadでないと出来ないのか？

iPadである必然性はあるのか？

活用におけるヒント

iPadの優位性

携帯性

手書き認識

音声入力・音声読み上げ

音

カメラ

ユニバーサルデザイン授業

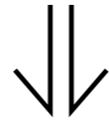
誰にでも分かりやすい提示

集中の切れない工夫

パソコンが苦手だからこそタブレットを！

Society 5.0 を意識すること

自分の育った時代とは違う



必要なスキルは変わっている

子どもたちに選択肢を提示できる

引き出しの数

自立は、依存先を増やすこと

熊谷晋一郎さん（くまがやしんいちろう）

小児科医／東京大学先端科学技術研究センター・特任講師

1977年、山口県生まれ。

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存してないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れていくわけです。

支援者の引き出しが
増えないと



子どもたちの
選択肢（依存先）は増えない

参考図書

教育技術 MOOK

タブレットで 変わる 授業デザイン

熊本市立榎木小学校教諭
西尾 環 / 著

ICT先達5人の
インタビュー掲載!

熊本大学教職大学院
准教授
前田 康裕

放送大学教授
中川 一史

株式会社LoiLe COO
杉山 竜太郎

関西大学教授
黒上 晴夫
情報通信総合研究所
特別研究員
平井 聡一郎

小学館

新時代を生きる力を育む

知的・発達障害のある子の
プログラミング
教育実践

監修：金森克浩 編著：水内豊和 著：海老沢穂、齋藤大地、山崎智仁



ジアース教育新社

特別支援教育サポートBOOKS

子どもが目を輝かせて学びます！

教材・教具・ICT

アイディア

100

教材・教具を
コミュニケーションツールに

スモールステップで「できた！」を引き出そう

明治図書

「特別支援教育の実践情報」編集部
村野 一 監



ワクワク テクノロジー

もっと

わかる、できる、もっと楽しめる



特別支援教育 **ONE** テーマブック

ICT活用

新しいはじめての一步

青山新吾
編集代表

郡司竜平 著



発達障害のある子の学びを深める

教材・教具・ ICTの 教室活用アイデア

金森 克浩・梅田 真理・坂井 聡・富永 大悟 著

鉛筆の
持ち方支援ができる
「ダブルクリップ」から
授業記録に役立つ
「レコーダー」まで

障害者差別解消法や
インクルーシブ教育システムなど
支援が求められる時代の
ちょっとサポート

LDの 「定義」を 再考する

(主催)——一般社団法人 日本LD学会

(編集)——小貫 悠・村山光子・小笠原哲史

Learning
Disabilities

上野一孝

高橋 知哉

藤 川

竹田 賢一

宮本 慎也

山中ともえ

海津 豊希子

辻藤 武夫

西岡 有香

田中 裕一

宮崎 芳子

柴田 文子

高橋 知哉

松 敦

小笠原 哲史

尾崎 敏正

情報通信の活用と社会参加の促進に向けて

障害者のICTを活用した社会参加

情報通信

事例集



特別支援教育サポートBOOKS

タブレットPCを 学習サポートに 使うための Q&A

河野俊寛 著

インターネットにつながら
ないと使えない？

指先が不器用なときは
どうしたらいい？

学習に使えるアプリの
見つけ方は？

いつ頃から使い始めれば
いいの？

入試に向けて使うときに
気をつけることは？

これで解決！
学習サポート
ツールとしての
活用法

明治図書

決定版!

特別支援教育の ためのタブレット活用

今さら聞けないタブレットPC入門

編者 金森 克浩

執筆 新谷 洋介 / 氏間 和仁
小川 穂史 / 高松 崇



シアース教育新社

コミュニケーションを 豊かにするための ICT活用

～〈続〉肢体不自由児のためのタブレットPCの活用～

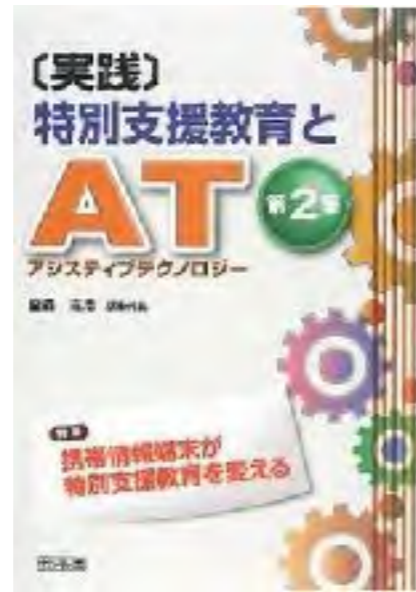


特別支援教育とAT(アシスティブテクノロジー)

国立特別支援教育総合研究所 金森 克浩



「概論・入門編」



「特別支援教育」



「学習のUD」



「合理的配慮」

各号のキーワード



「視覚支援」



「AAC再入門」



「知的障害」

東京大学先端科学技術研究センター 関係



魔法プロジェクト 研究成果

東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループは、携帯電話・スマートフォン等の情報端末の活用が障害を持つ子どもたちの生活や学習支援に役立つことを目指し2009年6月から「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」をスタートしました。



あきちゃんの魔法の
ポケット



魔法のふでばこ
2011



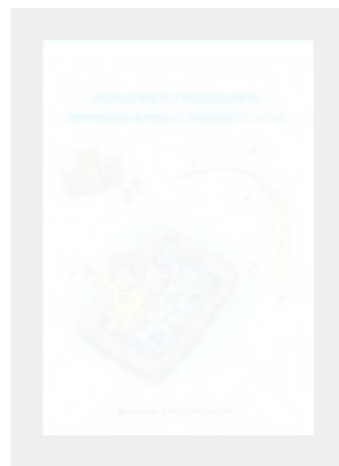
魔法のじゅうたん
2012



魔法のランプ
2013



魔法のワンド
2014



魔法の宿題
2015



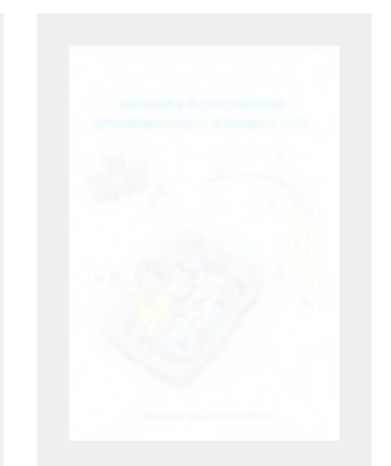
魔法の種
2016



魔法の言葉
2017



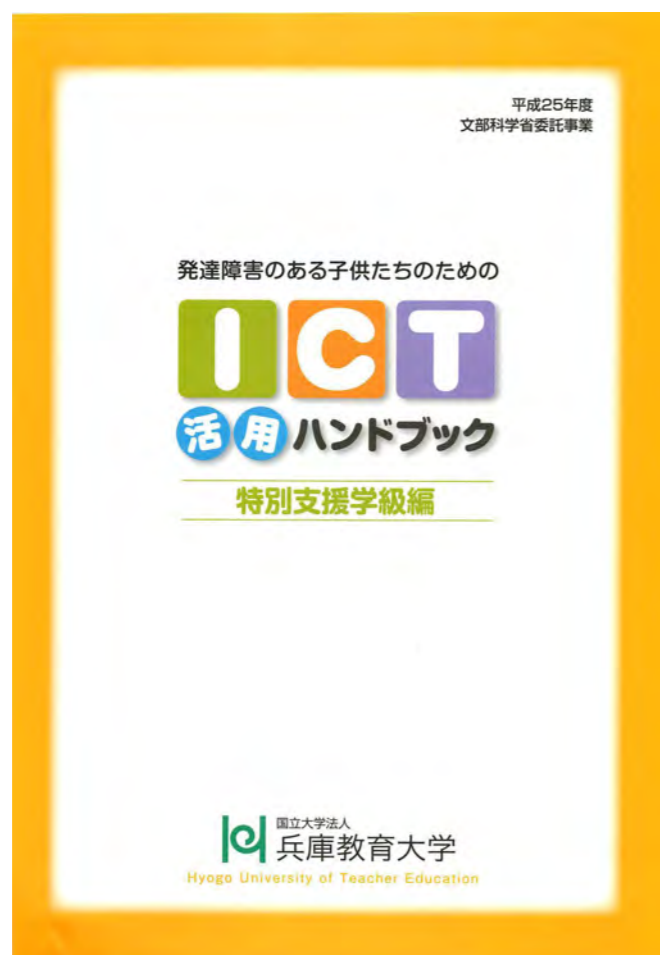
魔法のダイアリー
2018



魔法のWallet
2019

文部科学省

発達障害のある子供たちのための ICT活用ハンドブック



特別支援学級編



通常の学級編



通級指導教室編

香川大学教授

坂井 聡



EDGE



学習支援員のためのガイドブック

特別支援教育 実践テキスト [第2版]



特別支援教育実践テキスト

能力を引き出し伸ばす支援

通常学級における発達障害の
児童生徒への支援ガイドブック



ATDS

Assistive Technology Dissemination Society

NPO法人支援機器普及促進協会

<http://npo-atds.org>

<https://www.facebook.com/takamatsu.takashi>